



PRESS RELEASE (2011/03/15)

九州大学の研究成果が情報処理技術遺産に認定！！ (昭和30年代に開発した言語処理用計算機が認定を受ける)

概要

九州大学が昭和30年代に、機械翻訳研究のために開発した実験用コンピュータが、一般社団法人情報処理学会から、平成22年度の情報処理技術遺産に認定されました。

第3回となる今回は、情報処理技術遺産として9件が認定され、平成23年3月2日(水)に東京工業大学において認定式が行われました。

背景

情報処理学会では、日本のコンピュータ技術が発達してきた歴史の中で、特に重要な開発事物で現存しているもの(システムや装置あるいはその一部、ソフトウェアの設計図など)を情報処理技術遺産として認定し、その保存に努めるよう働きかけています。そして、各企業、研究機関等で保存されているこれらの遺産をホームページで網羅的に公開し、バーチャルなコンピュータ博物館を実現しています。今回、九州大学の機械翻訳研究のために開発された実験用コンピュータが情報処理技術遺産として認定されました。

内容

実験用コンピュータKT-1は、昭和30年代に、日本で初めて、日本語、英語、ドイツ語の三カ国語を自動的に翻訳する実験のために開発された言語処理用コンピュータです。KT-1は自動翻訳を実現するために、それぞれの言語を構文解析アルゴリズムでいったん中間言語的な情報に変換した上で、翻訳するという方式を用いていました。当時のコンピュータとしては、文字列の演算に優れているという特徴を持っていました。また、単に翻訳機として利用するだけでなく、一般の科学技術計算にも利用できるように汎用的な機能も持ってました。

現存するのはシステムの心臓部とも言える磁気ドラム記憶装置、トランジスタで構成された制御回路の一部、入出力に用いられた紙テープ等です。

参考：コンピュータ博物館のURL：<http://museum.ipsj.or.jp/heritage/KT-1.html>



KT-1の心臓部：磁気ドラム装置



認定証

【お問い合わせ】

大学院システム情報科学研究院教授 谷口倫一郎
電話：092-802-3594 Mail：rin@ait.kyushu-u.ac.jp